

- 2 エッセイ / “おかね” を語る
お金の魔力 言語学者・杏林大学外国語学部教授 金田一秀穂
- 4 インタビュー
生きる 作家 新井 満
- 9 地域の底力 ― 熊野町
筆の里・熊野町を訪ねて 広島県安芸郡熊野町
- 15 column / 一字千金
21世紀への架け橋 産業再生機構 代表取締役専務 (COO) 富山和彦
郵政民営化委員
- 16 対談 / 守・破・創
**山の手・下町をさらに南北に分けると
 東京の都市の成り立ちと未来が見えてくる**
伊藤滋都市計画事務所所長・早稲田大学特命教授 伊藤 滋
 日本銀行政策委員会審議委員 西村清彦
- 20 池上 彰のやさしい金融経済教室
日本銀行は海外協力もしている
- 24 にちぎんのある街から
福島 街に即した暮らしを残す
- 28 クローズアップ・あの日あの時
金融パニックを回避せよ 阪神・淡路大震災に見る中央銀行の存在意義
- 32 知るぼると招待席
金融教育の取り組みをさらに推進
～学校教育での実践を支援するために体制を強化～
- 34 トピックス
- 35 AIR MAIL from FRANKFURT
楽し恐ろしサンタクロース

表紙のじつば



日本銀行福島支店は、東北地方では最初の、そして日本銀行としては名古屋支店に次ぐ七番目の店舗として、明治三十一年七月に開設された（当初は出張所）。その後、支店昇格を機に、大正二年、辰野金吾博士とその弟子・長野宇平治らの設計により新店舗が完成した。レンガ造りにベージュ色のモルタル塗りで仕上げられたルネサンス調の建物は、明治・大正期の福島市を代表する洋風建築の一つとされた。当時、目の前の本町通りには、軽便鉄道が煙を吐きながら走っており、情緒溢れる町並みとなっていた。また、建物の中は天井が高く、明るい光がよく通り、ほとんど電灯を点けないで仕事が出来たという。残念ながら老朽化により改築を余儀なくされ、市民の方々に惜しまれながらも、昭和五十五年に現在の店舗が完成し、今日に至っている。